

自閉症の児童生徒の共通理解を図るために ～本校における自閉症プロジェクトの発足と1年目の活動報告～

中崎美智子 宮崎 眞 福田隆彦
木村重晴 巴 真希子 田村美穂子
(2012年3月5日受理)

Michiko NAKASAKI, Makoto MIYAZAKI, Takahiko FUKUDA
Shigeharu KIMURA, Makiko TOMOE and Mihoko TAMURA

The Autism Project's Report on Collaboration among Teachers to Teach Students with Autism within
a Special Needs Education School - A First Year Report -

1 はじめに

本校は、昭和49年に設立された知的障害の特別支援学校である。

昨今、自閉症については、教育課程をはじめ教育活動において、特性からの支援のあり方等の必要性を言われてきている。本校でも、平成23年度の児童生徒数は59名、うち自閉症児童生徒は33名で全校の59%であり、自閉症の児童生徒の占める割合が高い。

毎日の学校生活の中で、職員は、自閉症の児童生徒に対しての配慮や特性を理解しつつ授業に取り組んでいるところではあるが、集団になじめず様々な問題行動が見られる児童生徒も何人か見られていた。

そこで、担任が一人で悩まずに学部、学校全体で共通理解をしながら取り組むことで、自閉症児童生徒への共通した関わり方が見えてくるのではないかと考えた。

平成2X年12月から、担任が悩んでいる児童生徒のケース研を始めることから取り組み、平成2X+1年4月には自閉症プロジェクトという組織を学校の中に位置づけ、できることから活動を始めることにした。

本研究報告は、平成23年度教育実践総合センタープロジェクト研究6「自閉症研究支援プロジェクト」の支援を受けたものである。

2 平成22年度活動報告

(1) ケース研の実施

ケース研を行う時は、学部長、担任等、少人数で、ホワイトボードを使って現在の実態、問題の所在、今後の対応について短時間で話し合いを進めている。各ケースの問題の所在、対応については職員の共通理解を図るために、職員会議の終わりなどに、短時間で報告している。

① Aさん

- ・問題の所在：欠席、遅刻、早退が多く、行事にもあまり参加できていない。学級の集団に入れずパニックがあり安定しない。本人の状態が不安定なため母親も不安。
- ・原因として考えられること：対応、支援の共通化が図れない。母親は本人が心配で車で待っている。
- ・今後の対応：登校したら落ち着いた環境を準備する。(別教室、別課題等)。本人の好きな係活動をする等、学級に入れそうな時は入る。

② Bさん

- ・問題の所在：登校しぶり、他害、尿もらしなどのパニック。
- ・原因として考えられること：母親が本人と一緒にいたい気持ちが強く、食事や余暇等家にいる時間が楽しすぎる。
- ・今後の対応：中学部に進学することから母親への理解。服薬を含めた医療機関との連携。登校しぶりが激しい時は学校から家庭に迎えに行く等、学校に来ることを習慣化していく。

(1) 自閉症アセスメントの記入

自閉症の児童生徒についての進級についての引き継ぎは、これまで口頭で担新任から旧担任に年度末に行われてきた。自閉症の特性を基に教育活動を引き継いでいく必要があると思われる、自閉症の生徒については旧担任が自閉症アセスメント用紙（表1）に記入して引き継ぎを行っていくことにした。

自閉症アセスメント (H2 2年度) ㉑									
氏 名	部 年		記入日	年 月 日	記入者				
教室環境	学習スペース	教室 (一斉 仕切りあり 個々のスペース) 備置 その他 ()			(希望) 教室 (一斉 仕切りあり 個々のスペース) 備置 その他 ()				
	休憩スペース	教室 (一斉 仕切りあり 個々のスペース) 備置 その他 ()			(希望) 教室 (一斉 仕切りあり 個々のスペース) 備置 その他 ()				
	落ち着く場所 (混乱時)	必要 (備置 教室内スペース) 備置 不要 その他 ()			(希望) 教室 (一斉 仕切りあり 個々のスペース) 備置 その他 ()				
	指示理解	ジェスチャー 声かけ 指差し 実物 写真 イラスト シンボル 音声言語2語文以上 その他 ()			ジェスチャー 声 クレーン 指差し 実物 写真 イラスト シンボル 音声言語1語文 音声言語2語文以上 その他 ()				
コミュニケーション	自分の意思表現	()							
	レベル	()							
スケジュール	提示の量	今の活動のみ 次の活動まで 2〜3回の活動 半日 1日 一週間 その他 (カレンダーやスケジュールを見て理解できていると思われる) ()							
	レベル	()							
活動の自由	車庫	実物 写真 イラスト シンボル 文字 その他 ()							
	低歩のみした	原曲理解は→ 数字 並んだ順 記号 その他 () 指示方法は→ 一覧形式 めくり式 はずしていき形 その他 ()							
終わりの知らせ									
課題	内容	マッチング () 組立 () 分類 () 文具 () パッケージ () その他 磁り、ボルトナットはめ、ふたのめ、パズル等、 ()							
	興味・関心	どんな物、ことに興味関心があるか。 () 選択は () できる () できない ()							
その他	特記事項	パニックを起こしやすい状況と対処の仕方、家庭の自閉症への理解等、 ()							
		()							

自閉症アセスメント用紙はE 特別支援学校の様式を使用している。

3 自閉症プロジェクトの発足

平成2X年度の活動をふまえて、平成2X + 1年度4月から、校内組織に自閉症プロジェクトを位置づけた。(図1)

自閉症プロジェクトは、学部、分掌には属せず、各学部1名、養護教諭で組織する。必要に応じて、会議を持ち、校内においての自閉症の理解と啓蒙をねらいに、できることから活動をしている。

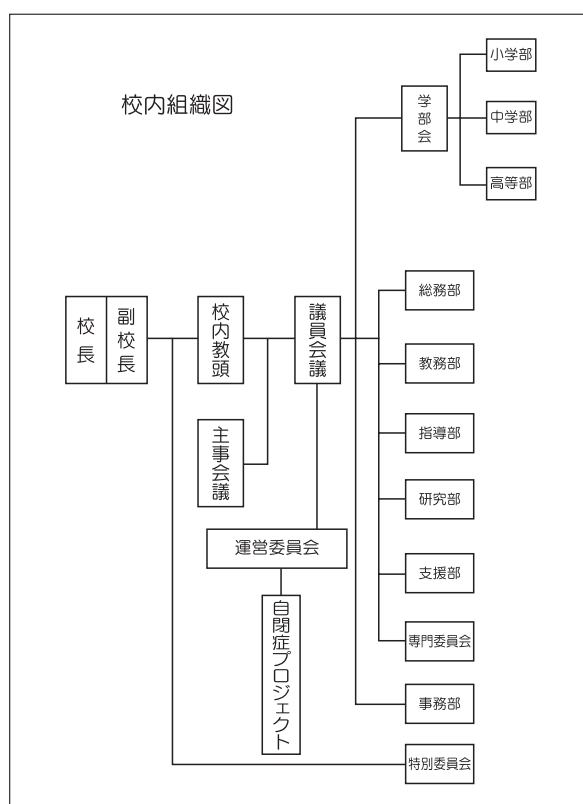


图 1

平成2X + 1年度の活動は、次の通りである。

(1) 保護者からのアンケート結果

保護者が今、抱えている課題や心情を理解することで、今後の教育活動に役立てることを目的とし、平成2X + 1年6月、本校の自閉症児童生徒をもつ保護者にアンケートを行った。

学部	配布数	回収数	回収率
小学部	11	11	100%
中学部	10	9	90%
高等部	12	10	83%
全校	33	30	90%

本校自閉症児童生徒数

33/59人 (59%)

- 1 障がい診断されたのはいつですか？（表2）
- 2 どこで、診断されましたか？（表3）
- 3 自閉症の障がいのための服薬はしていますか？（表4）
- 4 それは何という薬ですか？1日何回ですか？（表5）（表6）
- 5 障がいの特性について知っていますか？（表7）
- 6 今、お子様を育てていて、困っていることは何ですか？（表8）

（小学部）

- ・偏食（なかなか野菜を食べない）
- ・社会的マナーに反することであっても興味があれば真似てしまう。
- ・自分のかさぶた、爪の甘皮等をはがしてしまうこと。
- ・言葉の発達が難しい。
- ・床たたきがおさまらない。（アパートなので気になります）
- ・機嫌が悪く泣いてばかりいる期間が時々やってくるのが、「今度はいつやってくるんだろう」と考えると不安になるし、その期間がやってくるとストレスで胃腸にくるのが困っている。

- ・食べたい物をとにかく空にしたくて、全部食べるわけではないのに口に入れたがる。
- ・行動パターンが決まっていて、崩れそうになるとごねること。
- ・反抗期への対処。子どもの疑問への対処。など、他の子どもにはできても自分はできないのか知りたがるが多くなってきた。
- ・いらいの感情のセーブがなかなかできないのもちょっと困っている。
- ・一緒に出掛ける際、慣れない場所だとパニックになること。
- ・食べ物への執着が強いこと。

（中学部）

- ・自傷（頭をぶつけたり）。
- ・思い通りにならないとたたく、ける、物を投げる、ガラスなど危険でもかまわずたたく、ける。（外でも同じ）
- ・スーパーに買い物に行くとレジで店の人が1つずつカゴに入れたものを並べ直す。
- ・ひとり言の声が大きいのでまわりの人からじろじろ見られることがある。
- ・言葉が出ていない。サインも不十分。そのため意志の疎通がうまくいかないことがまだ多い。わかってあげられず怒りだしたりすることある。
- ・ストレスがたまるとパニックになり自傷行為がまだ見られる。
- ・身辺自立がまだで、危険を回避できない。
- ・興味の対象が狭くて、長期の休みなど単調な生活リズムだとぐずりやすくなる。
- ・外食、外出が困難。スムーズに行動してくれないところがある。ぐずりだすことがある。
- ・最近、服を噛むくせがあり、服がボロボロになりやすい。
- ・フラッシュバックのせいか、急に怒り出し暴力的になることがあり、兄妹が怖がる。不安定になってきたと分かれば防ぐことができるが、突然の時は暴力を防ぐことができない。

（高等部）

- ・言葉で話すことが苦手なようで、言葉を通し

でのコミュニケーションが難しくなってきた。
ている。

- ・外での行動を把握できなくなってきたけどこまで行ったりして過ごしているのかを本人より確認できない。地域の知っている人の目撃情報がたよりの状態。
- ・病院を受診してもきちんと診てもらっているのか疑問に思うことが多い。
- ・困ることに慣れてしまい、生活の中であたり前になってやり過ごすことが多くなったのだと思う。変だということ、修正すべきことがあったら、はっきりと親にも本人にも伝えてくれる人がほしい。
- ・情緒不安定、体調不良になると夜中に起きて不眠になり、睡眠パターンが崩れてしまう。
- ・1ヶ月～数ヶ月毎に突然、何かのブーム、こだわりが始まり大変。(お風呂のお湯を抜く、トイレのトイレットペーパーは使い切る等)
- ・擦過傷のかさぶた、指のささくれ、爪等を気になるとはがそうとし、血だらけになっていることがある。
- ・不測の事態の対応、言葉でのコミュニケーションが難しいこと、困っている時人に聞くということがわからないこと。
- ・発達のバランスの悪さがあるので、社会性は3～4歳レベルのところがあったり、動作性は12歳台のことができるものもあったり…。卒業後の進路で社会性を考えると、ある程度の保護が行き届いたところでないと無理だとは思いますが、作業面の能力を考えるとそれを生かしたいと思う親の欲があること。
- ・今日起きた出来事など、自分の話したい部分については、単語の端々でわかるようになってきたが、こちらの質問に対しての答えが難しい部分があること。
- ・周りが見えずその場面に合った行動がとれないこと。
- ・買い物の時、一人で勝手に離れること。
- ・本人が思っていること、感じていること、したいことなど、表現したい様子がみられる。

しかし、言葉でうまく表現できず(知っている単語や語句で短くするだけ)辛い思いをしているのを感じる。いやだ!やめて!何回も言うの(質問)やめて!が多くなっている。

- ・独り言(自分の世界に入って)が多い。
- ・こだわりがあり、時間がかかる。
- ・他人と意思の疎通が難しい。

7 自閉症について知りたいことは何ですか? (表9)

(小学部)

- ・自閉症のための薬ってあるのか?
- ・自閉症についての研究はどこまで進んでいるのか?
- ・成人後、どのような生活を送っているか。
- ・言葉の教え方を知りたい。知りたいのに分からない、覚えられない…ということで、イライラすることが多い我が子。どうしたら上手く伝えることができるかを知りたい。
- ・パニックになった際の上手な対処方法。
- ・“自閉症について”よりも“自分の子どもについて”を知りたい。本で読む“自閉症”にあてはまることもあるがあてはまらないこともある。個人差というか人それぞれの症状があるのは理解できるのでその“うちの子”ならではの特徴を知りたい。
- ・どんな特徴があるのか? どのような支援が有効的なのか?

(高等部)

- ・いろいろな症状があるようなので難しいと思うが、自分の子と同じような方の話を聞きたい。
- ・薬と自閉症(というか発達障がい一般)について長く飲み続けていることの副作用の心配。
- ・本人が理解しやすい様に支援できる方法、支援があるなら(今さらでも)教えてほしい。
- ・今、現在、医学的に自閉症の治療研究がどこまで進んでいるのか、また将来どのような医

学的アプローチが見込めるのかを知りたい。

- ・自閉症の特長を生かした生活のさせ方（？）、特長を生かして仕事にむすびつけられるか。
- ・脳機能障がいということで、てんかん発症した場合等、考えられることもあるが、発症しない方もいるのか。
- ・最近の医学情報（薬など）
- ・自閉症について一般の大人（子どもも）はどれくらい知っているのか。「うちの子は“自閉症です”」と話してどのくらい理解され誤解され、そのあとどう具体的に説明すれば的確に伝わるか。

8 将来への不安はありますか？（表10）

＊それはどんなことですか？

（小学部）

- ・兄弟がいなくて親亡き後、どういう風に生きて行くんだろうとか、いつまでも手をつないで歩くわけにもいかないと思うが、いずれにしても解決しないことはないだろうと思うと不安がある。（同意見多数）
- ・将来の自立（就職）について、就労について。（同意見多数）

（中学部）

- ・親がいなくなってしまう生活。（同意見多数）
- ・グループホームなど、私がいなくなっても、いる場所があるのはわかるのですが、はたして我が子はどこに入れるのか。
- ・高卒まで身の回りのことがどこまでできるのか。
- ・将来、どのように働いていくのか、どのように暮らしていくのか。（同意見多数）
- ・将来、子どもなりの生きがいをもった生活ができるのか。

（高等部）

- ・自分が年老いた頃、どのように過ごしていくのか。（同意見多数）
- ・中年、老年期の自閉症の人の生活の様子を知る機会がほとんど無いので将来の生活をイメージすることができない。お金の準備など生

活を支えるために親が今からできることを始めたいがどうすればよいのかと考えている。

- ・目の前の就労についてです。本人のできること（動作性）を考え、就労を試み、それがもしコミュニケーションなどの問題でつまづいてしまった時、どうしようか…。
- ・社会生活（一般）においての適応力。
- ・就労、余暇の過ごし方。
- ・誰かに必要とされることを一つでも見つけてほしい。
- ・自分の身のまわりのことを介助なくできるようになること。（自立とはまたちがう安心、安定）
- ・地域、社会で生きていくためのネットワーク、コミュニケーション、理解。（社会のあり方）
- ・就職できるか、就職先でうまくやっていけるか。

9 本校の教育で、自閉症の児童生徒に配慮してほしいこと、やってほしいことは何ですか？（表11）

（小学部）

- ・今まで通りでいいと思っているので特にない。ある程度上の先輩お母さんによると、「こういうことが許されるの？ 私達の時代は絶対ダメだったよ」等、昔は学校の先生は厳しかったという話をよくされ、「今はいいよねえ」とうらやましがられますが、厳しさも子どものためになるなら、今でも少し厳しいことがあってもいいのでは。
- ・学校と家庭が連携を図り、周囲からの支援を素直に受け入れられる、周囲からの支援に感謝できる、周囲から嫌われることのない、人間に育てていきたい。
- ・その子どもの好きなこと、得意なことだけでなく、色々なことに挑戦させてほしい。
- ・これからも校外学習を続けてほしい。（公共の乗り物や施設で静かにすることのルールを覚えてほしいです）
- ・話す時は短く、的確に、早口ではなくなるべ

く小さな声でお願いしたい。

- ・一人一人障がいの程度もちがうと思うので、その子に合った指導をしていただきたい。
- ・興味のあること、好きなことを増やしていただきたい。
- ・字の読み方、書き方。簡単なたし算、ひき算。楽器の演奏。

(中学部)

- ・先生がかわっても、学部がかわっても、その子に必要な効果的な支援が継続させること。
- ・自分の思いや感じたことを言葉でうまく表現できないことがあるので、小さな変化を気づいてあげてほしい。
- ・長々しゃべって伝えようとしている方がいるので…。
- ・自閉にかかわらず、みんな障がいをもっている学校ですので、一人一人の障がいに合わせた支援をお願いしたい。(今もして頂いてはいるが…)

(高等部)

- ・苦手なことや物でも何にでもチャレンジさせてほしい。
- ・親が考えつかないことでも本人が興味を持ちそうなことを探してほしい。
- ・自分で考える力を引き出してほしい。
- ・いろいろな体験を通して豊かな感性を育ててほしい。
- ・附属校ならではの小、中学校との交流(ふれあい、理解)
- ・たくさんの失敗(ダメはダメ)とたくさんの自信(良いことは良い)を経験させてほしい。
- ・大人に叱られる(注意される)経験。
- ・あいさつ、決まった受け答え。会話の訓練の時間をとってやってほしい。(マナーも)
- ・買い物学習など、実践的なやりとり。
- ・自閉症には特有の特長があるので、それを考慮しながら指導していただけたらと思うが、高等部ともなると卒業後、必ず自閉症の特長を知っている人と共に働いたり生活したりできるとも限らないので…。少しずつ、一

般的な(?) ことにも慣れさせて…。ただ、特長をふまえた指導(視覚優位、スケジュールのあらかじめの提示、非言語的なコミュニケーション手段)があつてこそ、本人の理解が進み、一般的な指導をできるようになるのだと思う。

- ・自他傷の危険があるので、本人、周りの人の安全にご配慮をお願いしたい。
- ・自閉に限らず、大学の教育学部附属という良さ(あるなら)を生かして、学生さん達と生徒の交流を実習以外でも機会が増えたら良いなと思っている。

10 保護者対象の自閉症についての研修があれば、どんな内容を希望しますか？(表12)

(小学部)

- ・高機能やアスペルガーの内容の研修は多いと思うが、低機能や重度の自閉症についての研修があればとてもありがたい。
- ・最新の情報とかがあれば聞きたい。
- ・自閉症の方が大人になった時、どのように暮らしているのか？大人になった時、どのような支援があるのか？教えていただきたい。
- ・親としてどのようにサポートしていけば良いか、家庭での療育 etc…。
- ・療育(成人後も含めて)の様々な具体的取り組み事例や体験談などの紹介。
- ・自閉症だけでなく、いろいろな障がいについて勉強してみたい。
- ・こだわり行動、偏食、排泄、コミュニケーション、反抗期、性教育…等々、エピソードでいいので「こうしたらクリアできた!」「こんなことがきっかけだった!」というような話を実体験として出し合い、聞き合いたい。(難しい理論学習より、“明日にでもやってみたい”と思えることが知りたい。)
- ・母はだいたい、いろいろなお話を聞いているので、父親とか祖父、祖母とか向けの研修があれば…(そもそも参加する父や祖父祖母なら、元々理解はあるような人なんだろうな

とは思うが)

(中学部)

- ・思春期、青年期、成人期の自閉症の特徴と支援のしかた…など。
- ・自閉症に限らずだが、わが子を思うと、考えてみれば、たくさん問題があり、これからの課題も不安もある。私は、母として、今、何をなすべきなのか？親が取り組むべきことは何なのか？
- ・自閉症の方、本人のお話が聞いてみたい。(社会に出ている人)
- ・青年期以降の仕事や生活の様子。具体的な例を知ることができたら。学校卒業後、数年間だけでなく、その後何十年もどのように暮らしているのか知りたい。
- ・一人一人の症状が異なるので不安大ですが、今、今日を何もなく過ごせることを願うばかり。

(高等部)

- ・支援ツール、学校で使っているもの、生活の中で保護者が使っているもの(なかなか親同

士でも話すことはない)、どんなものがあるか見てみたい。

- ・iPadを使い始めていて、自閉症のサイトからタイマーやら色々集めているが、何かおすすめのサイトがあったら教えてほしい。
- ・家庭でのしつけの方法やコミュニケーションのとり方について知りたい。
- ・なんでも。自分の子のタイプの自閉症は日々の生活の中で理解してきている…と思うが、他のタイプのお子さんのも知っておきたいと思う。
- ・他県の取り組や先輩の方がどのような生活をしているのか聞かせてほしい。
- ・困った行動への対応方法。
- ・言葉(言語)の発達の学習。
- ・子どもをリラックスさせるマッサージやスキンシップ。
- ・親子(家族)レクリエーション(親同士、兄妹同士、つながりがもてます)
- ・言語療法士、作業療法士の講演。スポーツ科学。

(表2)

学部	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	計
小学部	1	3	2	1	2	2				11
中学部			5	2	1				1	9
高等部	2	1	5		2					10
全校	3	4	12	3	5	2			1	30

(表3)

学部	南光病院	保健センター	3歳児検診	医大	療育センター	花巻病院	中央病院	計
小学部	6				4		1	11
中学部	6			2		1		9
高等部	7	1	1		1			10
全校	19	1	1	2	5	1	1	30

(表4)

学部	服薬している	服薬していない	計
小学部	3	8	11
中学部	4	5	9
高等部	4	6	10
全校	11	19	30

(表5)

学部	リスパダール	デパケン	テグレトール	リントン	ハイセレン	ネルボン	エビリフアイ	ウィンタミン	コントミン	ベンザリン
小学部	3				1					
中学部	2		1			1	2	1	1	1
高等部	3	1	2				1			

* 1回複数種類服用の場合も含む

* 服薬の薬の種類によって服薬回数がちがう場合あり。

(表6)

学部	1回	2回	3回	不穏時（パニック時）
小学部	1	2		1
中学部	4	1		
高等部	1	1	3	2

(表7)

学部	知っている	知らない	どちらともいえない	無記入	計
小学部	8		3		11
中学部	7		2		9
高等部	9			1	10
全校	24		5	1	30

(表8)

学部	こだわり	コミュニケーション	情緒不安	社会性	性教育	独り言	その他	計
小学部	4	1	4	1	2		3	15
中学部	5	2	3		1	1	2	14
高等部	3	6	1	4		1	2	17
全校	12	9	8	5	3	2	7	46

(表9)

学部	医療	将来の生活	支援の有効性	研究	啓蒙	その他	計
小学部	1	1	3	1		1	7
中学部							
高等部	4	1	1		1	2	9
全校	5	2	4	1	1	3	16

(表10)

学部	ある	ない	どちらともいえない	無記入	計
小学部	9		2		11
中学部	7		2		9
高等部	9			1	10
全校	25		4	1	30

(表11)

学部	親亡き後	進路・就労	中年老年期の自閉症	社会のネットワーク	その他	計
小学部	8	7			1	16
中学部	5	5			1	11
高等部	4	4	1	1	2	12
全校	17	16	1	1	4	39

(表12)

学部	成人の支援	支援のしかた	最新情報	その他	計
小学部	1	1	1	1	4
中学部	2			1	3
高等部		4		4	8
全校	3	5	1	6	15

(2) 保護者研修会の実施

保護者アンケートの結果から、平成2X + 1年8月1日、社会福祉法人フレンドシップいわての総括主任である小川博敬氏に、「自閉症の特性と理解～家族からの質問をふまえて～」というテーマで講演をしていただいた。

講演内容は、自閉症の研究動向、自閉症の特性の理解、自閉症と医療、支援方法、将来のことについてであった。

講演後のアンケートからは、実践的なことに沿った具体的な話や将来のことなど知りたいことが聞けてよかった、普段生活していくうえで必要なことを具体的に話してもらってよかったなどがあげられた。また、今後はケアホーム、グループホーム、施設、成年後見制度など、卒業後についての話をさらに聞きたいとの声も多かった。

(3) ケース研の実施

昨年度に引き続き、少人数でケース研を行い、今後の対応について話し合いを進め、結果については、職員会議後に職員の共通理解をするために報告している。

① Aさん、Bさんについて、昨年度のケース研後の報告

② Cさん

- ・問題の所在：卒業後に向けて作業班での支援のしかた、学校生活全般での本人の支援はどうあれば良いか。担任以外の職員が関わる時の共通理解が不足。
- ・今後の対応：卒業後はマンツウマンでは関われない状況になることを踏まえ、無理に作業量をこなすのではなく、作業場で安定して過ごすことをねらいに支援をしていく。ランニングについては、走らなくてもその場に行くことをねらいに支援する。担任以外が関わる時は、支援グッズを持参し、活動→休憩（グッズ使用）→活動とする。トイレは、活動が終わった時に行くように支援する。

③ Dさん

- ・問題の所在：たたく、噛む、爪を立てる、物を投げる行為が出始める。偏食が強くなる。一人で遊べるものがなくなった。母親の理解が得られにくい。

- ・今後の対応：たたく、噛む等の行為は今後の様子観察。偏食については毎日の給食の記録を簡単にとる。遊び、要求のしかたについては学校でできることを見つけ、母親に伝えていく。

(4) 支援の実際

各学部の支援について、職員会議後にプレゼンで紹介してもらっている。

① 支援の実際1（平成2×+1年8月24日）

- ・保護者講演会「虹の家」小川さんの講演会から、不適切な支援（言葉中心、抽象的、人によって支援方法が変化、支援者の欲求主体）、適切な支援（見て分かる形、具体的、一貫性がある、利用者主体）についての提示。
- ・「つなげる支援」はできないものか？という問いかけ。自閉症、自閉症ではない児童生徒についても有効となる支援。
- ・保健室での支援の実際について紹介。学校での健康診断は4～6月の時期に行われる。検診だけでなく、日常的、卒業後、病院での診察が容易にできるようになってほしい。
- ・E支援学校での視覚支援カードの紹介。
- ・5/12木、心臓検診（小1、中1、高1で実施）での支援。事前にカードを作って朝の会、帰りの会で提示をした。（図2）



図2



図3

② 支援の実際2（平成2X + 1年9月14日）

○小学部たんぽぽ組（生活単元学習教材例 しおり作り）の実際。

- ・冊子状では低学年の児童が作業しにくく、活動全体の流れを一目で活用できるじゃばら型のしおりを作成した。プレゼン等の絵や写真としおりの絵や写真は全て同じにし、活動内容を確認しながら絵や写真を各自しおりに貼る活動を取り入れた。（図3）
- ・成果としては、じゃばら型にすることで、貼り付け作業がスムーズにでき、活動全体の流れを一目で確認することができ、児童の見通しにつながった。課題としては、じゃばらを作ることができない児童が多く、教師の支援を必要とするため、形状をさらに工夫することが必要。校外学習や宿泊学習当日にしおりをめくってみる児童は少なく、当日にしおりを活用する機会を今後考えていきたい。

○中学部での共通の取り組み「朝の会」「帰りの会」の実践。

- ・今日がんばること（目標）を自分で考えて発表する。（図4）
- ・生徒に応じた方法で目標設定をする。（図5）
- ・目標設定が活動の見通しにもなっている。
- ・帰りの会では、今日自分が一番頑張ったことを発表する。自分で考えることが難しい生徒は、写真カードなどで選択する。評価は○、△、×で評価する。目標の振り返りは自己評価だけでなく、友達や教師からの評価も加わり、お互いの頑張りを認め合い、達成感を共有する場にもなっている。

○高等部（2年生連絡ノート 図6の活用）の実際。

- ・Fさんのケースからの紹介。
- ・登校後、着替えをして、今日の授業を記入し、昼休みに評価の数字、明日の授業、持ち物を記入する。



図4

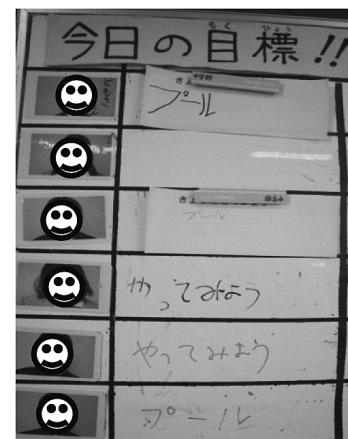


図5

- ・高1の時、登校後、授業からいなくなる、人をたたく、物をこわすことが多く、「今の気持ち」を数字で表すことにした。2年生になり、初めての行事では不安定になることはあっても、「今の気持ち」の数字を表すことで、安定することができるようになってきた。

* 1：イライラ 2：少しイライラ
 3：ふつう
 4：楽しい、うれしい
 5：すごく、楽しい、うれしい

連絡ノート

月	日	曜日	天気()	日通
				欠席
今日の授業				数字
1	□朝の会 □ランニング			
2	□			
3	□			
4	□			
結果	□連絡ノートを書く。 □結果発表			
課外	□静かに過ごす。(パソコン)			
5	□			
6	□			
明日の授業				押さえておく物
1	□			
2	□			
3	□			
4	□			
結果	□			
課外	□			
5	□			
6	□			
(保護者から)				
児童から				

図6

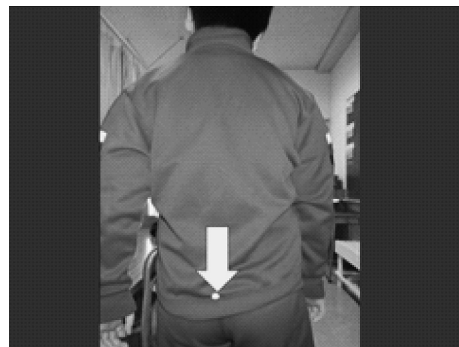
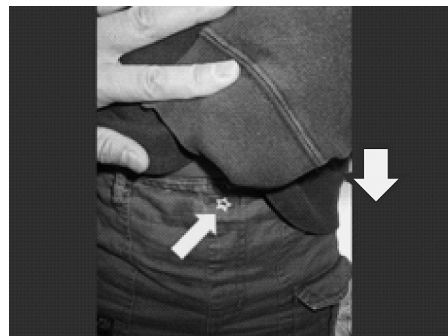


図7

- ・生活単元学習教材例 コック帽。一人がかぶることができるが、単元の活動と直結している教材。(図8、図9)



図8

③ 支援の実際3 (平成2X + 1年11月9日)

○小学部すみれ組の実際

- ・衣類の着替え場面で前後をまちがってしまう
 Gへの支援として、衣類に印をつけた。(図7) 本人にとって使いやすい、活用できている、と感じる。視覚的にわかる支援だが、一定時間、注視することが難しい。



図9

○中学部（作業学習 クラフト班）の実際

- ・一人で作業できるための補助具、掲示の紹介。(図10)



図10

○高等部（「働く人になる」現場実習、校内実習）の実践

- ・結団式、報告会では、目標用紙を学部で統一

し、目標を発表している。言葉のはっきりしない生徒への支援として、話している内容をプレゼンで映しだした。(図11)

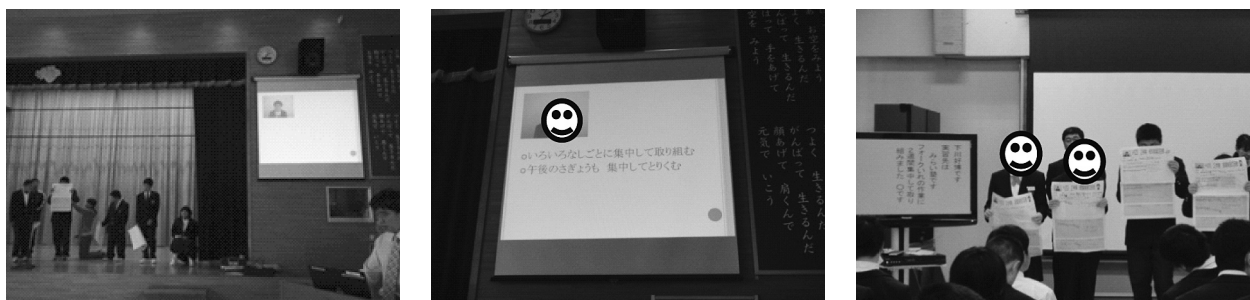


図11

- ・一人でバス通勤をする際に、バスの番号を教
えて支援し、番号を見ながら一人で通勤する
ことができた。(図12)



図12

- ・実習先でもチェック表の活用をすることで、
学校での取り組みを継続することができた。
(図13)

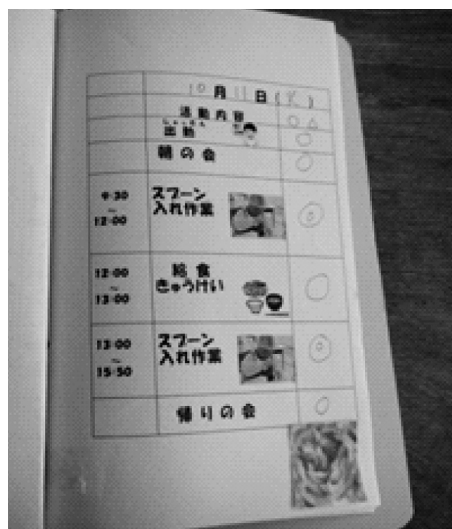


図13

④ 支援の実際4 (平成2X + 2年2月15日)

○給食についてのアンケートの実施

- ・1月15日に実施したDさんの事例から、偏食
について、給食への要望が担任から出された。
本校児童生徒は、どれほどの偏食があるの
か、職員はどのような支援を行っているのか
等を、各学担にアンケート調査を行った。(図
14)

給食についてのアンケート

(小・中・高) _____ 年

1 学校の児童生徒の偏食状況を教えてください。
※偏食の程度は、A：かなり強い、B：強い、C：ややある、D：全くない、
(両方にチェックをつけてください)

氏名	性別	学年	担任	偏食状況 (A・B・C・D)	説明・学校での対応・家庭での対応
1.				A・B・C・D	
2.				A・B・C・D	
3.				A・B・C・D	
4.				A・B・C・D	
5.				A・B・C・D	
6.				A・B・C・D	
7.				A・B・C・D	
8.				A・B・C・D	

2 給食の献立内容で気になるものがありましたら、お書きください。

氏名	性別	学年	担任	偏食状況 (A・B・C・D)
1.				
2.				
3.				
4.				

※各学担に各学担プロジェクトに提出してください。(12/22未定)

図14

- ・偏食状況 (A：かなり強い、B：強い、C：
ややある、D：全くない) について担任の感
覚でチェックしてもらおう 表13
- ・給食の献立内容等への希望としては、特に小
学部低学年では、初めての給食に少しずつ慣
れていく段階なので、家庭でもよく食べるよ
うなシンプルなメニューが多いと良い、メニ

学部	A	B	C	D
小学部 (18名)	2	2	6	8
中学部 (17名)	0	3	4	10
高等部 (24名)	1	3	5	15
全校 (59名)	3 (自閉症2)	8 (自閉症5)	15 (自閉症8)	33

表13

ューを見て、子どもが理解できるようなのが好ましい、おかわりのデザート等は、できる環境になったと勘違いしてしまう、麺類をもっとメニューにのせてほしい等の意見が出された。

- ・このアンケート結果については、栄養士に伝え、配慮や工夫をしてもらうことになった。

4 自閉症プロジェクト1年目の成果と課題

(1) 成果

- ・これまで各教師が自閉症の特性について理解しながらも、それぞれの力量で一人一人の児童生徒を支援してきたが、特性の再認識をし、自分が所属していない学部の様子について知ること、学校全体として自閉症の児童生徒を支援していこうという雰囲気になってきた。
- ・各ケースについては、以前は、各担任、各学部で頼っていたことが多く、担任以外から子どもの状態があまり良くない、今後このままで良いのかという言葉が耳にすることがあり、担任の負担感が強かった。プロジェクトが発足したことで、ケース研を容易に開催することができるようになり、小人数での話しやすさがあり、短時間で対応まで検討することができている。
- ・保護者のアンケートの回収率が高く記述も多かった。教育活動全般についても支援者側が気づかされることが何点もあり、今後の支援の参考となった。
- ・プロジェクトという組織であったので、計画や活動など、柔軟に対応することが可能であった。

(2) 課題

- ・1年目ということで、支援の実際について気軽に紹介してもらうことを優先した。今後、学校全体での統一したテーマや項目について実践しまとめ、年度を重ねることで、「つながる」という共通の取り組みになっていくと

思われる。

- ・次年度から、スケジュールの提示について各学部、全校で共通したものにしようと計画していたが、校舎改修工事が7月から11月まで行われることになり、新校舎になった時に活動していこうと考えている。また、改修工事が始まることで、感覚刺激や環境の変化に過敏な児童生徒への対応や支援のしかたについても取り組むことになると思われる。